



# 診療室の午後

白浜はまゆう病院  
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

2年半前まで、母校の医学部の泌尿器科学教室に勤務していた。外来や手術以外に、泌尿器科領域の基礎研究をしていたので、准教授に昇任後もしばらくの間、准教授室に移らずに医局の実験室に机を置いて自らピペットを握った。質の高い研究を続けたかった。

実験室は、医学部学舎が新築された時、本格的に整備した。メインの部屋には、試薬や溶液が並んだ棚のある実験台テーブルと各種研究機器を機能的に配置した。培養室には、複数の安全キャビネットや二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)インキュベーター、顕微鏡を置き、がん細胞やリンパ球の培養をした。

## 〈46〉「実験室の大掃除」

別の部屋には、化学薬品をABC順に整理した棚を壁一面作り、直下の実験台に電子てんびんや微量計量用のてんびん、水素イオン指

数(pH)メーター、吸光光度計などを使いやすく配置し、溶液や試薬の調製をしやすくした。実験助手2人の机も実験室に並べた。医局員たちの研究に対する志は人さまさまで、実験の後片付けも必ずしも良い結果は良

実験室の清掃を指導した。毎年、年末になると実験室の大掃除をした。大掃除は、数台の冷凍庫の整理から始まる。期限がとくに切れた試薬や制限酵素が多量に出てくる。ぎりぎりまで実験し卒業した大学院生たちは、終了した実験のサンプルを大量に残したまま足早に関連病院に赴任していく。各自に割り当てられ

しが部屋の壁をだいたい色に染めたかと思つと、すぐには暗くなる。大掃除後、実験室利用者の忘年会となり、年の瀬の慌ただしい中、その年最後の盛り上がりとなる。参加者は大学院生や実験助手など若手が多くにぎやかだ。留学していたアメリカの研究室でも、全員で年に1回、大掃除をした。終わると廊下に細長い折り畳みテーブルを置き、白いテーブルクロスをかけ、サブウェイの長いサンドイッチを文字通り列車のように並べ、パーティーとなったことを思い出す。大掃除は良い習慣だ。過去・現在を整理し心を解放する。そして新年には、しばし休息して静かな気持ちで未来に向かって祈るのである。皆さまのご健勝と良いお年越しを心よりお祈り申し上げます。